

オオチャバネセセリ

澄川基地の苗畑でエゾヤマザクラの苗の葉にとまっているセセリチョウに出会いました。取りあえずデジカメで撮影。撮影日時は2017年6月29日12時11分でした。

上翅の白斑が不明瞭でキバネセセリやイチモンジセセリと紛らわしい映像ですが、翅の縁の細やかな白いフリルが鮮やかで美しいのでオオチャバネセセリと判定しました。捕獲して下翅の斑を確認できれば紛れはなくなりますが、出会った虫たちは写真を撮らせてもらうだけにとどめておりますので、止む無しであります。ネットで下翅がわかる映像が見つかりましたので、借用掲載させていただきました。大きさは前翅長で16~21mm。飛ぶ姿は羽ばたきが早くスピーディなので、捕虫網に入れるのに苦労した思い出が蘇ります。

分布は広く、日本全国、海外ではロシア沿海地方からサハリン、朝鮮半島、中国さらに台湾におよぶようです。

日本での出現は6月から。食草は澄川ではクマイザサとススキのようです。幼虫はなかなかメンコイ姿をしております。ミヤマセセリの幼虫と頭の形や体形がよく似ていますが、食草は違います。幼虫の状態で越冬すること。いろいろな花に吸蜜にきますが、特にアザミ、ヒメジオン、ヨツバヒヨドリの花がお好みです。日本では各地で絶滅危惧種に指定されているようで、里山の環境劣化が原因のようですから、澄川森林の環境維持にさらに留意したいと思う次第であります。

澄川森林でこれまでに会って記事にしたササ類やススキのようなイネ科の植物に育てられた蝶はクロヒカゲ、サトキマダラヒカゲ、ヤマキマダラヒカゲ、ジャノメチョウと多いのです。ササやススキは造林地の下刈りで、除去対象ですが、こんなにも多くの蝶たちの食草であることに留意していただいて、感謝の念をこめながら刈払うことにいたしましょう。

